



①事業実施報告書詳細

学校名 柏崎市立半田小学校

【平成25年度 3学年】

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
10時間	学校	<p>&lt;カルタを作ってPRしよう&gt;</p> <p>3年生69名は、「柏崎のこと 見たい！知りたい！伝えたい！あおぞらお宝発見隊」というテーマで総合的な学習の時間を進めた。その活動のまとめとして、国語・図工等と関連させて地域の魅力をまとめた「ふるさと柏崎五七五カルタ」を作成した。このカルタは、「絵札」「読み札」をA5サイズで一人が一组作成し、ラミネートしたものである。</p> <p>子供たちは、学年末の3月から進級した5月にかけて「ふるさと柏崎五七五カルタ」を校内掲示板を使って全校児童と保護者・来校者にPRした。</p>		<p>1年間を通して地域探検を繰り返した子供たちは、地域の魅力を多くの人に知らせたいと考えた。学校全体で俳句活動に取り組んでいる子供たちは、まず、五七五調に魅力をまとめた。その活動の中で、それに合う絵を書いてカルタにしようというアイデアが出たので、全員で五十音のカルタができるように分担し作成した。</p> <p>学校での紹介コーナーは大好評を得、子供たちはもっと多くの人に紹介したいという気持ちを高めた。</p>
				

【平成26年度 4学年】

		<p>&lt;年間の活動概要&gt;</p> <p>今年度、4年生の総合的な学習の時間は、「自然・くらし・町」をテーマに環境を視点にしながら地域の魅力と課題を発見し、魅力の発信と課題の解決に向けて活動を進める。主に、学校の近くを流れる「源太川」の調査活動やケナフの栽培を通して、地域の自然環境に関心を持ち、環境を守ったりよりよくしたりするために自分にできることを調べ、考え、行動しようとする気持ちを育てることをねらった。</p> <p>そのまとめとして今年は「環境ポスター」「生き物カルタ」「ケナフしおり」等を作成する。地域の人たちに半田地域の自然環境の実態（現実）やそれに対する自分たちの思いを伝えるためのポスターである。</p> <p>そして、3年生の時に作成した「ふるさと柏崎五七五カルタ」と「環境ポスター」「生き物カルタ」を半田コミュニティーセンターに掲示したり、作</p>		
--	--	---	--	--

		成した「ケナフしおり」を置いて活用してもらったりして、「地域・環境」に対する思いを地域学習のまとめとして発信する。		
時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
25時間	源太川      学校	<p>&lt;源太川に行こう&gt;</p> <p>○源太川を知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川の生き物を探す。</li> <li>・川の水を調べる。</li> <li>・川や川辺の様子を調べる。</li> </ul> <p>○源太川を歩こう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川の様子を調べる。</li> <li>・上流、下流の水質調査を行う。</li> </ul> <p>○源太川の生き物を紹介しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校の人が源太川に関心をもってくれるよう、生き物調査で見つけた生き物を紹介する。</li> </ul>	   	<p>学校の近くに流れる源太川に繰り返し出かけた子供たち。生き物を捕まえたり、水遊びをしたりしている中で、川のきれいさと生き物の関係に着目する子供が現れた。そこで、水質調査と生き物調査を目的に上流・下流探検をした。</p> <p>源太川の現状を整理した子供たちは、「身近な源太川の現状(生き物や水質など)を全校児童や家の人たちに知ってもらおうと一人一人がポスターを作り、学校内の掲示板に掲示した。子供たちは、この活動を通し「環境と生き物」の関心に関心をもち、環境を守る必要性に気づき始めた。</p>
20時間	学校	<p>&lt;ケナフを育てよう&gt;</p> <p>○環境にいい植物について調べよう。</p> <p>○ケナフを栽培しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畑作り</li> <li>・種まき</li> <li>・水やり</li> <li>・観察</li> </ul> <p>○ケナフを活用しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケナフジュース作り</li> <li>・ケナフクッキー作り</li> <li>・ケナフ染め</li> <li>・ケナフの炭作り</li> <li>・ケナフケーキ作り</li> <li>・紙すき(和紙)</li> </ul>	  	<p>源太川への探検を続ける中、環境にいいと言われる「ケナフ」の存在を知った子供たち。さっそく学校の畑で栽培することにした。</p> <p>子供は、自分の身長以上に成長したケナフの活用方法を調べ、実際に行ってみることとした。</p> <p>ケナフには、空気をきれいにする効果だけでなく、多様な活用方法があることを体験を通して実感した子供たち。植物一つでこれだけのことができるという事実から、環境に対する思いや考えを深めていた。</p>



- ・ジュース
- ・ケーキ
- ・コースター
- ・炭 ・しおり



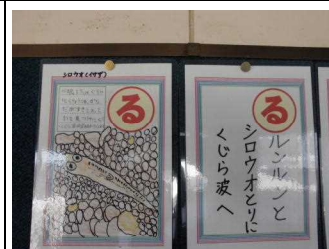
20時間 学校  
コミセ  
ン

＜自分たちの考えをPRしよう＞  
○自分たちにできることを考えよう。  
○これまでの活動をまとめ、PRしよう。  
・「ポスター」「カルタ」「しおり」で発信する。



学校や「コミセン」に設置した  
「あおぞら」コーナー

＜「あおぞら学年の常設コーナー」設置＞  
\*学校・半田コミュニティーセンター  
◇「ポスター」や「カルタ」は「あおぞら学年コーナー」として年間を通して継続的に掲示してもらう。  
◇「ケナフしおり」は、コーナーの前に置いておき、自由に活用してもらう。



川調査やケナフ栽培を通して、地域の自然環境に関心を持ち、環境を守ったりよりよくなりました。考えた子供たち。

その思いを地域に伝える方法として考えたのが、「ポスター」「カルタ」「しおり」であった。そして、「学校」「コミセン」に「あおぞらコーナー」として掲示することにした。子供たちは、自分の思いや調べた内容を工夫を凝らして「カルタ」「ポスター」に表現した。

②学習指導案（年間活動計画）

【平成25年度あおぞら学年総合指導計画（70時間）】3学年

テーマ 柏崎のこと 見たい！知りたい！伝えたい！ あおぞらお宝発見隊

1 学年で願う子どもの姿

半田・柏崎の探検や、地域に住むお年寄りとのふれあい、また文化や伝統にふれることを通して自分たちの住んでいる町について関心を高め、自分の町を愛する子ども。

3年生になり、新しい仲間と出会い新しい学級作りが始まった。中学年として低学年の世話をしたり他の学年と一緒に活動する場面も多くなった。友達のよい所に気づいたり、自分のよを認めってもらったりお互いの関わりも深まってきている。

そこで、社会科の地域探検と関係付けながら自分たちの住む町について深く関心をもち、半田地域や柏崎の昔から今日までのことについて詳しく探る活動を中心に、この町を愛する心を育てていきたい。また、お年寄りとの交流から身体の不自由な様子を感じ取り、相手を思いやる態度を培いたい。

2 活動の構想

過程	活動時期	活動内容	活動形態等
半田のお宝発見	4月 ～5月	○お宝調査、お宝ガイド（校区探検） ○探検したことを絵地図に表し、新聞にまとめる・発表する。	・調べ学習 ・新聞へのまとめ
半田のお年寄りとのふれあい①	5月	○お年寄りと交流① ・「フラワーロード作り」 ○「敬老会」準備・練習	・体験活動 ・インタビュー ・話し合い、準備
柏崎のお宝発見①	6月	○柏崎探検、お宝調べ ○「えんま市」について調べる。 ・始まり、歴史、昔と今のえんま市の違い ・えんま市とかかわりのある食等、探検計画を立てる。 ○「えんま市」探検に出かける。 ・探検して分かった事を新聞にまとめ、発表する。	・話し合い、準備 ・調べ学習  ・体験活動 ・インタビュー ・新聞へのまとめ
半田のお年寄りとのふれあい②	6月	○お年寄りとの交流会② ・「敬老会」参加	・発表
柏崎のお宝発見②	7月	○柏崎探検、お宝調べ ○柏崎ぎおんまつり ・マーチング、たる仁和賀、海上花火	・個人…夏休みの課題
柏崎のお宝発見③	9月	○柏崎探検、お宝調べ、体験 ・探検して分かったことを新聞にまとめる。	・体験活動 ・新聞作り

半田のお年寄りとのふれあい③	9月	○お年寄りから教えてもらおう③ ・昔の遊びを教えてもらおう ○お年寄りとの交流④ ・「生き生きサロン」参加 ○お年寄り体験をしてみよう⑤	・体験活動 ・インタビュー
柏崎のお宝発見③	9月 ～12月	○柏崎探検、お宝調べ、体験 ・探検して分かったことを新聞にまとめる。	・体験活動 ・新聞作り
半田のお年寄りとのふれあい④	10月 ～12月	○半田の昔のことをお年寄りから聞こう⑥ ○半田・柏崎の昔話を調べよう ○お年寄りとの交流⑦⑧ ・「生き生きサロン」参加 ○お年寄りとの交流⑨ ・「昼食会」参加	・体験活動 ・インタビュー ・調べ学習
半田のお年寄りとのふれあい⑥	1月 ～2月	○お年寄りとの交流⑩ ・コミセン「繭玉作り」「揚げもち作り」	・体験活動
活動のまとめをする。	1月 ～3月	○半田・柏崎お宝カルタ作り ・校内掲示	・まとめ ・発表会

### 3 地域や保護者との連携

- ・半田コミセン訪問での「生き生きサロン」「昼食会」
- ・保護者ボランティアのお願い
- ・保護者を招いての発表会

### 4 評価の観点

評価	評価の規準
課題追究能力	・半田地区や柏崎について調べたり体験したりすることを通して、半田や柏崎のお宝を進んで調べ続けることができたか。
情報活用能力	・PCの使い方に慣れ、目的に応じた資料や情報を収集し、活動に生かすことができたか。
コミュニケーション能力	・地域の方やお年寄りと進んでかわり、インタビュー等を通して疑問を解決したり、自分の考えを伝えようとしたりしていたか。
表現・発信能力	・調べたり、体験したりして分かったことや考えたことを、分かりやすくまとめたり伝えたりすることができたか。
自己の生き方	・活動で出会った方から学んだことを生かして行動しようとしているか。

テーマ 「自然・くらし・町」

～源太川・ケナフを通して身近なかんきょうを考えよう～

## 1 学年で願う子どもの姿

源太川の調査活動やケナフの栽培を通して、地域の自然環境に関心をもち、環境を守ったりよりよくしたりするために、自分のできることを調べ、考え、行動することができる子ども。

4年生は、社会科や理科の学習、学校でのリサイクル活動やクリーン作戦を通して、ごみ問題やそれにとまなう温暖化、大気汚染、水質汚染、森林破壊など環境悪化の現状に、関心をもち始めている。

そこで、身近な環境を見つめ、自分たちの生活に深く関わっている自然に対し、何ができるか、どうしたらよいかについて自主的、創造的に学習活動を展開させていきたい。身近な環境ということで、今年度は地域を流れる源太川の調査活動とケナフの栽培を取り入れる。これらの体験活動を通して、自然環境に関心をもたせたり、問題を見い出したりすることができるようにしたい。

学習を進める過程で様々な疑問などが出てくると思われるが、インターネットや本などで調べたり、活動の中で指導員の方から説明を受けたり、質問に答えていただいたりすることで、理解を深めるようにする。そして、これらの活動から、環境を守ったりよりよくしたりするために、地域住民の一人として自分には何ができるかを考え、実行できるようにしていきたい。

そして、最終的に地域学習のまとめとしての発信活動をしたいと考える。昨年度は校内掲示に留まったが、できればもっと地域の方々目にふれる場所に掲示したい。

## 2 活動の構想

過程	活動時期	活動内容	活動形態等
学習計画を立てよう	4月 ～5月	○テーマについての理解を深める。 ○年間の活動について見通しをもつ。	・話し合い
半田の空気を調べよう	5月	○半田の空気の汚れは？ ・半田地区5か所の空気の汚れ調査をする。	・調べ学習 ・話し合い
ケナフを育て活用しよう①	5月 ～10月	○ケナフについて調べる。 ○ケナフの栽培体験 ・畑作り・種まき・水やり・観察	・調べ学習 ・体験活動
水の活動①	5月	○きれいな水ときたない水、どこがちがうのか調べよう。 ・水道水とプールの水の水質調査をする。 ・水中生物を調べる。	・調べ学習 ・話し合い
水の活動②	6月	○源太川に行ってみよう。 ・川の水を調べる。 ・川や川辺の様子を調べる。	・体験学習 ・調べ学習 ・インタビュー

		・川の生き物を探す。	
水の活動③	7月	○源太川を歩いてみよう。 ・川沿いを歩いて川の様子を調べる。 ・上流、下流の水質調査を行う。 ・源太川の水がどこから来ているか調べる。(藤井堰見学)	・体験学習 ・調べ学習 ・インタビュー
水の活動④	7月	○源太川の生き物を紹介しよう。 ・全校の人が源太川に関心をもってくれるよう、生き物調査で見つけた生き物を紹介する。	・ポスターへのまとめ
水の活動⑤	9月	○鯖石川の上流で活動しよう。 ・川遊び、生き物探し等 (子ども自然王国)	・体験学習 ・調べ学習
ケナフを育て活用しよう②	10月 ～12月	○ケナフを活用しよう。 ・ケナフジュース、ケナフクッキー、ケナフ染め、ケナフケーキ ・紙すき・炭作り	・体験学習
活動のまとめ	1月 ～3月	○これまでの活動をまとめて発表しよう。 ○自分たちにできることは何か考えよう。 ・環境ポスター、生き物カルタの作成	・話し合い ・ポスター、カルタへのまとめ ・コーナー設置

### 3 地域や保護者・部外講師等との連携

- ・地域振興局からの協力（生き物探し・川辺の活動・藤井堰見学・昔の源太川等）
- ・こども自然王国の活動の企画・指導・援助
- ・半田コミセンからの協力（川辺の活動や川の清掃）
- ・保護者ボランティアのお願い
- ・保護者を招いての発表会

### 4 評価の観点

評価	評価の規準
課題追求能力	ねらいやめあてをもって、進んで活動したり調べたりすることができたか。
情報活用能力	テーマについて、本やインターネット、インタビューなど様々な方法で、見通しをもって進んで調べることができたか。
表現・発信能力	自分の考えや学んだこと、調べたことを、分かりやすくまとめたり伝えたりしたか。
自己の生き方	自然や環境について、考えをもったり、深めたりすることができたか。

(1) 実施にあたり工夫した点

体験を豊かにし、そこから生まれる課題意識を大切に展開した。3年生における「町探検」、4年生における「川探検」「ケナフ栽培と活用体験」と対象に十分かわる時間を確保したことで、児童の対象への興味関心を高め、活動への意欲的な取組を引き出すことができた。また、体験を思考活動へのつなげるために、その後の言語活動を大切にした。その際、一人一人の気づきを言語化するだけでなく、みんなでその気づきを話し合うような場をタイミングよく設定した。そのことで、子供は、対象への気づきを広げたり深め、追究の意欲を高めながら活動に取り組んだ。そして、最終的に「多くの人に知らせたい」という思いが高まったところで、地域発信をしかけ、一人一人の思いのつまった「カルタ」「ポスター」を作成することができた。

(2) 実施にあたり苦労した点

校外学習における体験活動は、実施の有無や内容を天候に左右されることが多い。計画どおりにいかないことが多々あり苦労した。

(3) 児童の反応

自分たちの学んだことを絵や言葉で「カルタやリーフレット」にまとめるだけでなく、それを発信活動に活用しようと設定することで、子供たちの意欲が高まると同時に景観への見方や気づきが広がった。最終的なゴール（目的）を明確にすることで、調査活動やまとめの活動において豊かな感受性とコミュニケーションを最大限に生かして、より言葉や絵に仕上げようと取り組むことができた。そして、実際に地域の魅力や課題をカルタやポスターにして校内や地区のコミュニティーセンターに掲示する活動を通して、地域の課題を自分事として解決に向けて取り組んだり、魅力を多くに知らせようとしたりする「地域を愛する心」が育まれたと考える。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

総合的な学習の時間は、ただ体験をすればよいというわけではない。体験後にどんな活動をすれば対象に対する思考が深まるのか、子供たちの「～したい」という気持ちが高まるのか、その「～したい」をどのように具現していくのか等、年間の活動をマネジメントしながら取り組んでいた。また、活動を充実していくには、子供の気づきを指導者がしっかりと把握しておく必要がある。一人一人の気づき（シート等）を丁寧に見取る姿勢が見られた。

(5) 今後の課題と取組〔留意すべき事項等〕

3、4年生は地域を対象に総合的な学習の時間を進めている。対象が身近にあることで、たっぴりとかかわることができるが、高学年の「食育」「キャリア」等では、そうとはいかない場合もある。地域学習にどっぴりつかった子供たちが、高学年になった際、総合的な学習の時間のテーマや内容をどうするのか、体験の豊かさをどのように生み出していくのかが、今後の課題となる。